



—東地中海地域ニュース—

中東和平：ネタニヤフ・イスラエル首相の演説とイスラエル・パレスチナの反応  
(6月15日付現地報道)

1. 演説内容

6月14日、イスラエルのネタニヤフ首相は、外交方針に関する演説を行った。その中では、イランの脅威および国際金融危機への対応、和平の推進に関するイスラエルの立場が表明された。ネタニヤフ首相は、イランの脅威をイスラエルおよび中東が直面する最大の危険と述べる一方、中東和平プロセスへの取り組みについて最も時間を割いた。

中東和平プロセスについて特に注目された発言は以下の点である。

- (1) PA率いるパレスチナ人に対して、前提条件なく迅速な和平交渉の開始を呼びかける。紛争の根源は、ユダヤ人が歴史的ホームランドに国家を有する権利への承認を拒否することにある。
- (2) パレスチナ難民問題については、イスラエルの国境の外で解決されるべき。
- (3) パレスチナ人が将来的に統治する領土が非武装化され、イスラエルの安全上のニーズが保証されるとともに、パレスチナ人がイスラエルをユダヤ人国家と認めるならば、将来的な和平合意において、ユダヤ人国家に隣接する非武装パレスチナ国家という解決策を実現する用意がある。
- (4) エルサレムは、あらゆる信仰の宗教的自由を伴いながらもイスラエルの統一的首都であり続けねばならない。
- (5) 新たな入植地の建設はしない。既存の入植地のために土地を没収することもない。しかし、入植地の住人に通常の生活を送らせる必要はある。

2. イスラエル紙（15日付）およびパレスチナ紙（14日付）は、ネタニヤフ首相の演説に対するイスラエルおよびパレスチナの反応について以下の通り報じた。

(1) イスラエル側

①イデオト・アハロト紙シマ・カドウモン論説委員

- (a) イスラエルで最も演説の能力がある人物といわれていたネタニヤフ首相であったが、原稿から目を離せず、エネルギーを欠いた昨日の演説の様子を見ていると、演説の内容がまだ自身の言葉になっておらず、あのような内容の発言が如何に同首相にとって困難な行為であったかが明らかであった。
- (b) 二民族二国家の原則を受け入れたことにより、イスラエルにおける右派の最後の砦が陥落した。ベン・ツィオン・ネタニヤフ（右派の歴史家）の息子がユダヤ人国家に隣接したパレスチナ国家の建国を受け入れた今、今後それ以下の内容を提示することのできるイスラエルの首相は誰一人もいないであろう。
- (c) ネタニヤフ首相は、演説において全ての課題をパレスチナ人に対して突きつけたが、

対処することができないことは明らかである。

- (d) 今後は何らドラマティックなことは起こらない。政権が崩壊することもなく、連立政権は継続し、リクード内からの反発もない。カディマが政権に加わることも考えにくい。従って、ネタニヤフ首相にとっては大きな意味があったが、それ以外にとっては小さな一歩に過ぎない。

## ②ハアレツ紙エリ・シャビット記者

- (a) 昨夜、ネタニヤフ首相は一線を越えた。自国に仕えるため、父のイデオロギーから足を洗うという大きな決断をしたが、それは正しい行為であった。はっきりとした口調で、「ユダヤ人国家イスラエルに隣接した非武装化のパレスチナ国家」と述べた。
- (b) ユダヤ人国家としてのイスラエルの承認および非武装化したパレスチナ国家という二つの原則がホワイトハウスに対して提示された。オバマ米国大統領がこれらの原則を受け入れなければ、イスラエルの存在に未だコミットしない米国大統領が目の前に存在している事実を知ることになる。一方、もしオバマ大統領がその原則を受け入れ、イスラエルのために国際社会から和平の確約を取り付けることができれば、同大統領は真の和平の指導者となる。

## (2) パレスチナ側

### ①アブルデイナ大統領府報道官（パレスチナ通信（WAFA））

- (a) ネタニヤフ首相の演説は、中東和平に関する全てのイニシアチブ、全ての期待を破壊し、あらゆる努力に制限を付するものである。また、同演説は、パレスチナ、アラブおよび米国の中東和平に関する立場に対する明白な挑戦であった。
- (b) ネタニヤフ首相が東エルサレムをパレスチナ国家の首都として認めないこと、難民問題の解決策を押し付けようとするのは、決して国連決議に基づく公正かつ包括的な和平をもたらさない。

### ②エラカート PL0 交渉局長（ハアレツ紙およびマアン通信）

- (a) ネタニヤフ首相は、パレスチナ難民のイスラエルへの帰還を拒絶し、エルサレムの地位に関して妥協するつもりがなく、同首相の演説は、中東地域の和平努力を破壊するものである。同首相は、パレスチナ国家について言及したが、それは、エルサレム問題を除外し、難民問題および安全保障に関する問題を交渉の対象外にすると述べた後のことであった。
- (b) イスラエルのメンタリティを知る者ならば、このような演説を聞いても驚かないだろう。アラブ諸国が、アラブ和平提案を凍結することによってこの演説に対して正しい立場を取るよう呼びかける。

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799